

Ⅲ. 資金支援詳細事例紹介

Ⅲ-1 資金支援事例：金融機関等

- 金沢信用金庫
- 知多信用金庫
- のと共栄信用金庫
- 東海労働金庫
- 北陸労働金庫
- 三重銀行
- おひさま進歩エネルギー株式会社
- NPO 法人 ぎふ NPO センター
- コミュニティ・ユース・バンク momo

Ⅲ-2 資金支援事例：事業者

- NPO 法人 こうじびら山の家
- 森林施業 NPO 法人 森林の風
- 有限会社 芳賀自動車

Ⅲ-1 資金支援事例：金融機関等

【資金支援事例：金融機関等】

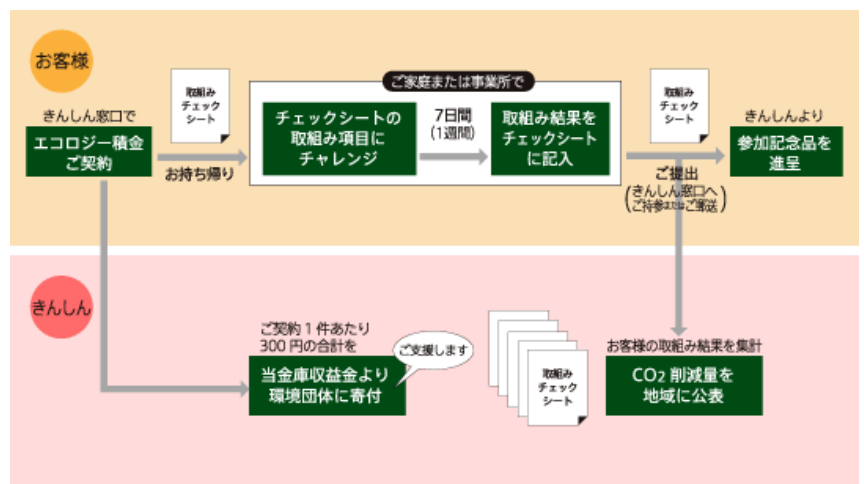
支援パターン	集める-預金等 使う-寄付・助成、融資			
環境系事業等への資金支援名称	きんしんエコロジー積金			
機関名・所在地	名 称：金沢信用金庫			
	所在地：石川県金沢市南町1-1			
連絡・問い合わせ先	担当部署	業務企画部	URL	http://www.shinkin.co.jp
	電話	076-231-0293	FAX	076-231-1766
	mail	h.hota@kinshin.co.jp		

【1. 経緯】

信用金庫は、地域に生まれ、地域とともに歩む金融機関であり、地元の環境保全を応援することは社会的使命であると考えている。そこで、平成13年から地域ネットワークに参加し、市民・行政・事業者との連携による環境保全活動を行い、平成17年にはISO14001を取得し、事業活動における省資源・省エネの推進やグリーン購入、環境保全のイベントへの協賛やボランティア参加等を積極的に行ってきた。しかし、環境への影響において金融機関に期待される役割とは何かを考えた時に、預金・融資等の本来業務を通じて多くのお客様に環境保全活動を働きかけることではないかと考えた。そこで、お客様が活動参加するスキームとしては金融機関初となる「きんしんエコロジー積金」を平成19年に発売した。

【2. 資金支援の内容】

直接参加型社会貢献活動（お客様が環境保全活動を実施する）と間接参加型社会貢献活動（環境団体への寄付）を組み合わせた金融商品としては、金融機関として初の試みでもあったため、他の金融機関からの問い合わせも多く、各地で講演も行い、長野県信用金庫協会が商品導入を決定し、趣旨に賛同した県下6信用金庫の共同商品である『しんきん減CO2定期積金』が平成21年4月に始まるなどの広がりを見せている。



1) エコロジー積金 CO2削減にチャレンジしようとする家庭・事業所に対して金利上乗せ定期積金口座を開設。

- ・対象者： 一般家庭版：個人および個人事業主、事業所版：法人または個人事業主
- ・契約期間： 3年(掛込回数36回)、5年(掛込回数60回)
- ・積立金額： 毎月1万円以上
- ・適用金利： 店頭表示利率+0.10%(H21年度)
- ・環境保全活動： 『環境保全活動取組みチェックシート』に基づきCO2削減に挑戦(1週間)

※チェックシート提出者には参加記念品を進呈→CO2削減量を公表

- 2) 環境団体への寄付 契約数により、当金庫が環境団体への寄付金を拠出。
- ・ 寄付金： 契約高の 0.02% (第 1 回：H19. 10. 1～H20. 12. 30)
契約 1 件につき 300 円 (第 2 回：H21. 4. 1～H22. 3. 31)
 - ・ 寄付先： (財) きんしん環境財団
いしかわ eco 基金 (第 2 回のうち H21. 4. 1～9. 30 の期間の 200 円/件)
↳ 石川県環境部の「いしかわエコチケット事業」と連携

環境保全活動取組みチェックシート 一般家庭版

7日間(1週間)のチェック内容を以下の記入欄に入力して記入いただき、決りつけの表によりご確認ください。

7日間(1週間)で減らした二酸化炭素の量を合計します。

項目	削減量 (g)
1. エコバッグ	300
2. エコ消費	230
3. エコドライブ	970
4. エコ家電	330
5. エコ給湯	280
6. エコ照明	120
7. エコ給水	30
8. エコ洗濯	180
9. エコ掃除	30
10. エコ印刷	20
11. エコ紙類	400
12. エコ家具	40
13. エコ食料	30
14. エコ飲料	110
15. エコ紙類	230
16. エコ紙類	280
17. エコ紙類	140

環境保全活動取組みチェックシート（一般用）

環境保全活動取組みチェックシート 事業所版

7日間(1週間)のチェック内容を以下の記入欄に入力いただき、決りつけの表によりご確認ください。

7日間(1週間)で減らした二酸化炭素の量を合計します。

項目	削減量 (g)
1. エコバッグ	330
2. エコ消費	280
3. エコドライブ	210
4. エコ家電	970
5. エコ給湯	210
6. エコ照明	470
7. エコ給水	50
8. エコ洗濯	440
9. エコ掃除	280

環境保全活動取組みチェックシート（事業者用）

【3. 対象】 【4. これまでの支援先】

寄付先である「(財) きんしん環境財団」では、下記の活動を行っている。

- ・ 石川県における生活環境保全
- ・ 里山利用、生物多様性保全
- ・ 地球温暖化防止活動
- ・ 環境教育の実践と啓発

例えば、金沢市内の小中学校が行う環境保全活動や環境に関する調査・研究活動に助成している（助成総額 300 万円、1 校あたり上限 50 万円もしくは 20 万円）。平成 21 年度は、13 校 33 取組に対して助成した。

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

預金・融資等の本来業務を通じて多くのお客様に環境保全活動を働きかけることで環境保全活動へ貢献している。金沢信用金庫では、「しんきんエコロジー積金」以外にも下記の取組を実施し、環境保全に貢献している。

- ・ 「きんしんエコ・ビジネスローン」:

環境対策に積極的な企業に融資金利を引下げる制度。当金庫が作成した算定表に基づき、企業の環境への取り組みをポイント換算(エコ格付け)し、ポイントにより金利引下げ幅が決定される。平成 21 年 12 月に「京都議定書目標達成特別支援無利子融資利子補給金交付事業」に採択されたのでリニューアル。

- ・ 「きんしんエコきゃっする」:

カードローンの新規契約お一人につき当金庫から 100 円が環境団体に寄付される。

寄附実績：274,300 円 (H19 年度 119,700 円、H20 年度 92,000 円、H21 年度 62,600 円)

(調査者：戸上昭司、調査日：平成 22 年 3 月 3 日)

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	使う-融資、寄付・助成			
環境系事業等への資金支援名称	地域振興支援制度「夢サポート」			
機関名・所在地	名称： 知多信用金庫			
	所在地： 愛知県半田市星崎町3丁目39番地の18			
連絡・問い合わせ先	担当部署	企画部地域貢献課	URL	http://www.chitashin.co.jp/company/dream.html
	電話	0569-26-1015	FAX	0569-23-3505
	mail	-		

【1. 経緯】

地域に密着した金融機関である「信用金庫」として、「地域社会の発展に積極的に関わり、地域との一体性を感じながら社会的責任を果たしていきたい。」

地域に貢献することを第一とする金庫創設以来の主旨に従い、平成16年4月に創設された。

なお、同信金では同年に「ISO14001」認証も取得し、地域の環境配慮への活動も社会貢献活動の一環として取り組んでいる。

【2. 資金支援の内容】※制度の内容

「地域振興」、「環境保全」などに役立つ新たな事業や活動に対し助成金の交付により支援を行う制度である。

1) 助成金額

- ・計画する事業、活動資金（予算）の2分の1（最高200万円）、年間総額1000万円以内
- ・ISO14001認証取得は、一企業上限30万円まで

2) 資金源

知多信用金庫の収益を充てている

3) 選考方法

所定の応募用紙と資金計画書などの添付資料などを作成し、募集期間内（年2回）に提出。
当金庫が指名した外部有識者による選考委員により厳正な審査を経て決定される。

4) 特徴

制度名は地域振興支援制度であるが、単に地域経済の活性化を期待する「地域振興」だけでなく「環境保全」や福祉の充実、地域文化の興隆に役立つ新たな事業、活動をも応募対象としている。

「地域に貢献する」という基本理念にもとづき、当金庫との取引の有無を排除し、応募用紙を極力簡便にするなど、地域のために役立つ活動であればどのような小さな活動でも応募を可能としている。

【3. 対象】

原則として、（当金庫の営業エリア内である）知多半島（5市5町）内に事務所、活動拠点等がある中小企業、個人事業及び各種団体を対象として、

- 1) 地域振興に役立つ新たな事業（企業活動や団体活動）
- 2) 起業・新規事業（新分野への進出）でその事業が地域振興に直接的、間接的に寄与できること。
- 3) 環境保全に役立つ新たな事業（企業活動や団体活動）

※審査ポイントとして、地域社会への波及性、影響力、将来性などを総合的に判断される。

【4. これまでの支援先】

1 件 200 万円の助成金以内であれば、応募は何度でも可能であり、複数回の支援を受けている先もある。6 年間の助成状況は以下のとおりであるが、地域内の中小企業事業者、NPO 法人からコミュニティ、市民グループなど幅広く支援を受けている。

対象区分	応募件数	助成件数	助成金額（万円）
地域振興関係	190	84	2,478
環境保全関係	60	25	669
ISO14001	24	24	270
福祉関係	145	73	1,713
その他	136	42	870
合 計	555	248	6,000

※ 支援先の業態には「株式会社」「有限会社」「NPO 法人」「市民グループ」「組合組織」など様々な実績がある。



「夢サポート」の案内パンフレットと新聞記事

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

地域の環境保全活動を行う幅広い団体、組織への支援実績がある。環境保全分野へはこれまでに累計 25 件（助成金額 669 万円）の支援を行っているが、地域振興分野の支援先の中でも環境に配慮した取組が含まれている。

※商店街と地元工業高校との連携による、太陽光発電を利用した街路灯の設置事例

環境整備をしながら地域内防犯や健康促進を図るコミュニティの事例など、環境に配慮した地域活性化の取組は今後も増えていきそうである。

地域のための小さな活動も地域全体では大きな活動となり、新たな事業も生み出される可能性を持っている。そのような地域活性的の“夢”の実現のために、この制度は今後も続いていくと考えている。

（調査者：平野良子、調査日：平成 22 年 3 月 1 日）

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める-預金等 使う-融資 プロジェクト支援			
環境系事業等への資金支援名称	『やまもり』			
機関名・所在地	名 称：のと共栄信用金庫			
	所在地：石川県七尾市松物町35番地			
連絡・問い合わせ先	担当部署	総合戦略部	URL	http://www.notoshin.co.jp
	電話	0767-52-0593	FAX	0767-52-1305
	mail	sousen@notoshin.co.jp		

【1. 経緯】

信用金庫としてどのような地域の問題解決に貢献できるかと考え、まずは地域の人口減少問題を取り上げ、子育て支援を始めた（多子家族応援定期預金『子宝1000』）。次に環境問題を取り上げた（平成19年）ところ、地球温暖化等のグローバルな問題も大事ではあるが、ローカルに視点を落とすと地元・能登の森林が荒れてきていることを当金庫としては懸念するところであった。能登地域は漁場が有名ではあるが、その漁場も豊かな森があればこそであり、山の荒廃は海の荒廃をも意味している。そこで、「子ども達に能登の自然を残そう」という発想のもと、森づくりに寄与する商品開発を行った。その際、お客様にも参加意識を持ってもらいたいと思い、お客様からも寄付をいただく仕組みを考えた。

【2. 資金支援の内容】

1) “能登の森づくり” 定期預金

石川県の県有林保全を当面の目的とした、金利上乘せ定期

預金で森づくりファンドへ拠出

- ・対象者： 全て（個人、事業者）
- ・預入期間： 1年（自動継続）
- ・預入金額： 10万円～500万円
- ・預入利率： 店頭表示利率+0.15%

（自動継続後は、店頭表示利率へ）

2) 森づくりファンド

当金庫が設置した、能登の森の植林、人工林整備を行うことを目的とした基金。

- ・寄付：
上記定期預金の預金者から寄付（初回満期時の利息の5%）に加えて当金庫から拠出（上記定期預金の募集総額の0.03%）
- ・事業内容：

①森づくり（人工林整備（間伐等）、植林、遊歩道美化、自然体験学習等）

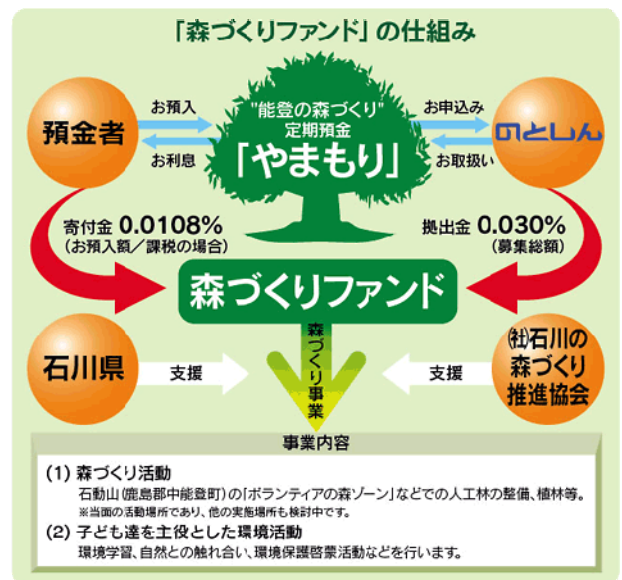
実施場所： 当面の活動場所として、石動山（鹿島郡中能登町）の県有林

実施時期： 6、10月

参加者： 一般参加者、当金庫役職員

協力： 石川県、（社）石川の森づくり推進協会

②子ども達を主役とした環境活動（小中学校での環境教育実施等）



【3. 対象】

森づくりファンドは、一般参加（ボランティア）の方や当金庫役職員等と実施する、下記の活動資金となる。

- ① 森づくり（人工林整備（間伐等）、植林、遊歩道美化、自然体験学習等）
- ② 子ども達を主役とした環境活動（小中学校での環境教育実施等）

【4. これまでの支援先等】

1) 寄付総額： 1,897 万円

- ・お客様の寄付（満期到来時寄付金見込額）：累計 697 万円（H20 年度 440 万円、H21 年度 257 万円）
- ・当金庫拠出金：累計 1,200 万円（H20 年度 600 万円、H21 年度 600 万円）

2) 活動実績

- ・人工林整備：石動山の県有林 3ha ※参加者は、毎回約 300 人
CO2 吸収量 70.0t-CO2（2 年間）←県が認証
- ・環境教育：小学 6 年生を対象に環境学習を実施 ※H21 年度は七尾市、中能登町の 18 小学校が対象
当金庫の環境担当者が小学校へ出向いて環境学習の授業を実施。



石動山の森づくり作業風景



環境教育

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

「お客様に寄付をお願いすることで、森づくりファンドの活動に対するお客様の目線も厳しくなる。このことが、責任を持って森づくりに取り組むことにもつながっており、また職員の中には森林の所有者もいるため、当取組に対する職員の関心も高く、森づくりファンドの活動への参加度も高い。」ということである。

「豊かな自然環境を次世代の子ども達に」を目指して、地域社会一体となった環境問題への取組を通じて地域の環境保全へ貢献している。

（調査者：戸上昭司、調査日：平成 22 年 3 月 3 日）

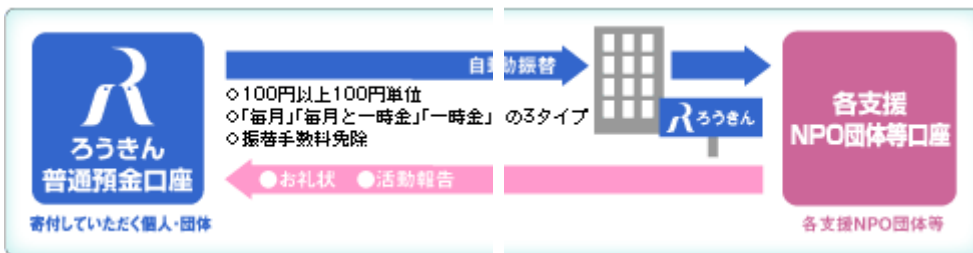
【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める-寄付、預金等 使う-融資、寄付・助成			
環境系事業等への資金支援名称	NPO 支援制度 1) NPO 寄付システム 2) NPO 事業サポートローン 3) NPO 助成金制度			
機関名・所在地	名 称：東海労働金庫			
	所在地：〒460-0007 名古屋市中区新栄1丁目7番12号			
連絡・問い合わせ先	担当部署	営業統括部	URL	http://tokai.rokin.or.jp/
	電話	052-243-8820	FAX	052-243-8948
	Mail	eigyotokatsub@tokai.rokin.or.jp		

【1. 経緯】

「あしなが育英会への寄付」「東海集中豪雨時の取組」などの実績がある中で、働く人の相互扶助を目的として設立された労働金庫の理念に基づき、利益をCSRとして還元するという発想から設立した。

【2. 資金支援の内容】



NPO 寄付システムの流れ

1) NPO 寄付システム

- ・平成 14 年 2 月より実施
- ・支援 NPO 団体リストの中から寄付先を預金者が選び、普通預金からの自動振替にて寄付
- ・支援 NPO 団体は 58 団体(平成 21 年 3 月末)
- ・毎月 100 円から寄付可能
- ・寄付者には寄付先の団体から年 1 回以上の活動報告が届く

2) NPO 事業サポートローン

- ・平成 13 年 9 月より実施
- ・指定管理者制度等に基づく事業には、連帯保証なしでも融資可能
(連帯保証あり：1.100% 連帯保証なし：1.475%)
- ・事業に係る委託費総額の 90%まで融資可能

3) NPO 助成金制度

- ・平成 16 年より実施
- ・毎年 7 月に事業型 NPO 起業支援講座を行い、8 月に助成金申請受付
- ・市民フォーラム 21NPO センターと協働で審査
- ・3 年間連続申請可
- ・上限額は 1 年目 100 万、2 年目 70 万、3 年目 50 万円
- ・総額 1000 万/年
- ・助成後は市民フォーラム 21NPO センターがコンサルティング
- ・助成金額の 10%をコンサルティング料に充てる



NPO 助成金制度の交付式の様子

【3. 対象】

- 1) NPO 寄付システムの支援 NPO 団体等
 - ・平成 14 年 2 月 市民フォーラム 21NPO センターのご紹介で 20 団体
 - ・平成 16 年 各支店から NPO 団体を推薦してもらい 19 団体追加
 - ・平成 18 年 公募により 24 団体追加
- 2) NPO 事業サポートローンの融資対象
 - ・指定管理者制度等に基づく事業以外も対象
- 3) NPO 助成制度の助成対象
 - ・事業性のある NPO 団体等
 - ・応募者のプレゼンを経て助成団体を決める

【4. これまでの支援先】

- 1) NPO 寄付システム
 - ・ 2236 件、年間寄付総額 328 万円 (2009 年 3 月末)
- 2) NPO 事業サポートローンの融資残高
 - ・ 7 件、4300 万円 (2009 年 3 月末)
- 3) NPO 助成制度での助成先 (一例)
 - ・ 中部リサイクル運動市民の会 (名古屋市)
 - ・ 赤目の里山を育てる会 (名張市)
 - ・ 森林ボランティア団体樹遊人塾 (岐阜市)

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

「ろうきんの理念」に基づき、人々が喜びをもって共生できる社会の実現にむけて、環境保全を含めた社会貢献活動を行っている。NPO 寄付システム、NPO 事業サポートローン、NPO 助成制度の他に、本社ビルでの ISO14001 の取得等の行動も積極的に行われている。

(調査者：村田・加藤、調査日：平成 22 年 2 月 18 日)

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める-寄付 使う-寄付・助成、その他			
環境系事業等への資金支援名称	NPO 支援制度 1) NPOサポートローン 2) NPO 助成金 3) NPO 寄付システム 4) 各種手数料免除			
機関名・所在地	名称：北陸労働金庫			
	所在地：石川県金沢市芳斉2-15-18			
連絡・問い合わせ先	担当部署	経営企画部	URL	http://hokuriku.rokin.or.jp/index.shtml
	電話	076-231-2165	FAX	076-222-7048
	mail	s-kikaku@hokuriku.rokin.or.jp		

【1. 経緯】

当金庫としては、非営利金融機関としてのろうきんの理念に基づいて、何かもっと地域に力添えができないかと考えている。そこで、社会福祉や環境整備の増進を行う地域の NPO やボランティア団体を支援する制度をつくった。

【2. 資金支援の内容】【3. 対象】

多くの助成金が、申込後に実施する事業に対して助成するのに対し、当金庫の助成金は当年度内であれば既に行った事業に対しても助成する。これは、助成金の有無に関わらず実施の意志がある事業に対して助成する、という姿勢を示したものと見える。

1) NPO 事業サポートローン制度 (NPO 法人への融資制度)

- ・対象団体：
 - 北陸3県に主たる事務所を置く
 - 実績3年以上のNPO法人
- ・対象事業：
 - 地域における福祉、生きがい、教育等の事業
- ・資金使途： 運転資金、設備資金
- ・融資額：
 - 無担保：500万円以内、有担保：5,000万円以内かつ担保評価範囲内
- ・融資金利： 年2.875%～年3.175%
(平成22年2月現在)
- ・返済期間：
 - 運転資金：1年以内(手形貸付)、5年以内(証書貸付)
 - 設備資金：7年以内(特例15年以内)
- ・返済方法：
 - 手形貸付：期日一括返済、証書貸付：元利均等月賦償還または元金均等月賦償還

■NPO法人やボランティア団体へ4つの支援制度

支援制度の種類	制度の概要
NPO事業サポートローン制度	NPO法人の経済的支援のための融資制度で、法人の目的に係る事業の運転資金・設備資金を融資する制度です。
NPO助成金制度	団体としての活動(事業)内容が顕著で、継続的に取組んでいるNPO法人やボランティア団体への助成金を交付する制度です。
寄付システム制度	NPO法人やボランティア団体の経済的基盤の充実・安定を支援するための制度で、会員や寄付をされる方が、ろうきんの普通預金口座から自動的に会費や寄付金を引き落とし、登録された寄付団体の口座に振込む自動振替制度です。
各種手数料免除制度	NPO法人やボランティア団体の経済的基盤の充実・安定を支援するための制度で、事前に登録された団体が、送金・振込の際の手数料などを免除する制度です。

2) NPO 助成金制度 (NPO 法人・ボランティア団体への助成制度)

- ・対象団体： 北陸3県に主たる事務所を置く実績2年以上のNPO法人、任意団体、その他法人
前年度助成団体でないこと
- ・対象事業： NPO法に掲げる活動、シニアワークライフに関する活動、本制度目的に沿う活動

- ・助成金額： 総額 300 万円、1 団体あたり上限 20 万円
- ・選考基準： 地域貢献性、独創・先駆性、参加性、成長性、継続・将来性
- ・選考方法： NPO 助成金交付団体選考委員会にて審査
- ・助成期間： 当年度取組に対して 10 月申請、1 月助成
- ・広報： 社協や中間支援 NPO を通じて。過去助成団体のクチコミ。
- ・選考方法： NPO 助成金交付団体選考委員会が審査。
委員会メンバー(7 人)：当金庫役員、県推進委員会代表者(県別)、中間支援 NPO、NPO 団体、県ボランティア組織
- ・申込・助成実情：制度開始以来、地道な宣伝活動やクチコミ等により、徐々にではあるが申請団体も増えてきている。助成金制度について、認知されてきている。

3) NPO 寄付システム制度

(事前に登録された NPO 等へ、寄付金や会費などを希望者の普通預金口座から自動振込)

- ・寄付額： 毎回 100 円以上
- ・寄付コース： 毎月コース、ボーナスコース、毎月・ボーナス併用コース、年 1 回コース
- ・寄付者への報告： お礼状、最低年 1 回の事業報告またはニュースレター
- ・制度利用団体： 12 団体

※助成金を受けた時に、初めて当制度の存在を知って利用申請をするパターンが多い。

4) 各種手数料免除制度(事前登録された NPO 法人やボランティア団体は、送金や振込時の手数料を免除)

- ・対象団体： 北陸 3 県を主たる活動の場にする実績 2 年以上の NPO 法人、ボランティア団体
- ・免除対象： 送金・振込手数料、預金・融資残高証明発行手数料、預金口座の再発行手数料

※助成金を受けた時に、初めて当制度の存在を知って利用申請をするパターンが多い。

【4. これまでの支援先】

1) NPO 事業サポートローン制度

- ・助成実績： ()内は環境 CB 団体数

総額： 交付 のべ 192 団体、総額 1,849 万円

平成 15 年度： 交付 17 団体、総額 260 万円

平成 16 年度： 交付 14 団体、総額 200 万円

平成 17 年度： 交付 31(1)団体、総額 200 万円

平成 18 年度： 交付 35(3)団体、総額 300 万円

平成 19 年度： 交付 33(3)団体、総額 294 万円

平成 20 年度： 交付 24(2)団体、総額 295 万円

平成 21 年度： 交付 38(5)団体、総額 300 万円

- ・助成先事例：(事例抜粋)

Bamboo saves the earth (平成 21 年度)：

ひきこもりの若者の外出支援としてのオールナイトごみ拾い。若年者就労支援と環境活動を合わせたもの。

地球の友・金沢(平成 21 年度)：

自転車の利用促進により CO2 削減を行うプロジェクトを実施。

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

「ろうきんの理念」に基づき、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与するため、社会福祉や環境整備に関する上記の支援制度等を定め、地域との共生を図り、ボランティア活動へも積極的に参加することで環境保全を含めた社会貢献に取り組んでいる。

(調査者：戸上昭司、調査日：平成 22 年 3 月 2 日)

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	使う-寄付・助成、融資			
環境系事業等への資金支援名称	NPO 支援制度 1) NPO サポートファンド 2) NPO ローン			
機関名・所在地	名 称：三重銀行			
	所在地：三重県四日市市西新地 7 番 8 号			
連絡・問い合わせ先	担当部署	総合企画部 広報室	URL	http://www.miebank.co.jp/index.shtml
	電話	059-354-7172	FAX	059-355-8225
	Mail	koho@miebank.co.jp		

【1. 経緯】

- 1) NPO サポートファンド
三重県四日市発の地域通貨「J マネー」の動きの中でできた NPO との繋がりがきっかけ
- 2) NPO ローン
NPO サポートファンドの寄付先との「NPO 交流会」において、つなぎ融資のニーズを知ったことがきっかけ

【2. 資金支援の内容】

- 1) NPO サポートファンド
 - ・平成 16 年度以降、地元 NPO に毎年 100 万円を三重銀行から寄付
 - ・1 団体につき最大 20 万円
 - ・年間総額 100 万円
 - ・三重銀行との協働の可能性について申請書に記述
 - ・書類選考、プレゼンテーション審査を経て寄付先と寄付金額を決定
 - ・寄付先の NPO 団体の中から毎年数団体を招き、三重銀行経営陣と「NPO 交流会」を開催し意見交換
 - ・「NPO 交流会」が、三重銀行と NPO 団体との間の新たな協働の取組みのきっかけとなることもある

〈三重銀行と NPO との協働による取組み事例〉

 - ・NPO 法人「森林(もり)の風」と三重銀行保有の空き地を「みえぎん まなびの森」として整備
 - ・地域のみなさまや子どもたちが、環境への関心を高めるきっかけを持つことによる「環境経営の推進」、
「次世代育成支援」という 2 つの効果を目指している。
- 2) NPO ローン
 - ・つなぎ資金として 1 事業最高 500 万円まで融資
 - ・担保不要、連帯保証人必要

「みえぎん まなびの森」での作業風景

【3. 対象】

- 1) NPO サポートファンド
 - ・三重県内に主な活動拠点がある
 - ・NPO 法人に限らない
 - ・毎年テーマを決めて募集
(平成 21 年度：環境保全、20 年度：子育て支援)
- 2) NPO ローン
 - ・対象は NPO 法人に限る



【4. これまでの支援先】

1) NPO サポートファンド

- ・平成 21 年度は環境保全をテーマに設定
- ・8 件の応募、6 団体に 14 万円～20 万円を寄付
寄付事例

1. 環境学習サークルみえ
-子供を対象にした環境学習の体験プログラム実施
2. よみがえれ大又川連絡協議会
-地元河川の再生、周辺の自然環境保全
(平成 21 年度 支援団体一例)

2) NPO ローン

融資実績累計 9 件 3000 万円(平成 22 年 3 月 1 日現在)

3) NPO 交流会

平成 21 年度までに 19 団体が参加

寄付先を招いて三重銀行経営陣と行われる「NPO 交流会」



【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

環境保全活動を行う団体を NPO サポートファンド、NPO ローンを通して支援している。NPO サポートファンドにおいては平成 16 年度の設立からこれまでに 3 度環境保全をテーマに募集をしており、幅広い環境保全活動団体を助成している。

今後、三重銀行の目指す姿は「地域に広く深く根を張り、親しまれ信頼される銀行」であり、以下の点に力を入れたいとのことであった。

- ・既存のパートナーシップの発展
(これまで築いてきた NPO との関係を深め、ニーズや協働のネタを継続的に掘り起こし)
- ・新しいパートナーシップの模索
(NPO ローン、サポートファンド等を通じて NPO との新しい交流と協働を継続的に働きかけ)
- ・職員への啓発と参加促進
(銀行としての支援姿勢を明確にし、活躍する NPO の姿を行内へ情報発信することにより
職員個人レベルの社会貢献意識の浸透を図る)
- ・地元企業と NPO の橋渡し

(NPO 応援の先駆者として地元企業と NPO の接点を積極的に作り、双方にメリットのある協働を探る機会を提供)



「みえぎん まなびの森」での集合写真

(調査者：木村・加藤、調査日：平成 22 年 3 月 1 日)

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める - 出資 使う - 事業			
環境系事業等への資金支援名称	自然エネルギー投資ファンド 1) 南信州おひさまファンド 2) 温暖化防止おひさまファンド 3) おひさまファンド 2009			
機関名・所在地	名称：おひさま進歩エネルギー株式会社			
	所在地：〒395-0044 長野県飯田市本町 2-15 いとうや 3F			
連絡・問い合わせ先	担当部署		URL	http://www.ohisama-energy.co.jp/
	電話	0265-56-3711	FAX	0265-56-3712
	mail	hara@ohisama-energy.co.jp		

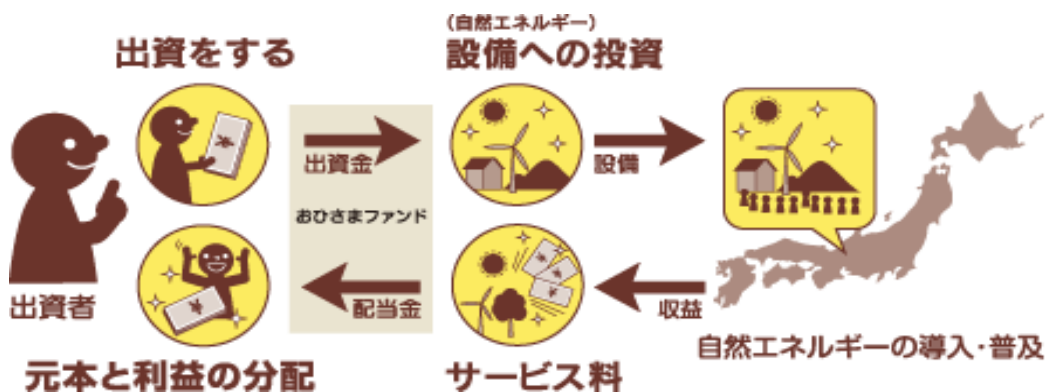
【1. 経緯】

平成 13 年 9 月、飯田市の太陽光発電の普及をさらに進めようと、市民中心で「おひさまシンポジウム」を開催。平成 16 年 2 月 16 日に、「NPO 法人南信州おひさま進歩」が誕生。飯田市が平成 16 年度の環境省補助事業（環境と経済の好循環のまちづくり事業）に採択され、運営母体として前述 NPO が「おひさま進歩エネルギー株式会社」を平成 16 年 12 月に設立。平成 17 年 2 月より市民出資を募集開始。

【2. 資金支援の内容(市民ファンドの運用支援)】

グループ会社である「おひさまエネルギーファンド株式会社」が市民からの出資を募り、「おひさま進歩エネルギー株式会社」で出資金を運用するしくみ。出資を募る際に、環境啓発効果や発電効率を考慮するなど設備と資金の運用手段を明確にし、太陽光発電設備設置等の運用により得られた収益から、元本と配当を出資者に還元している。平成 19 年より毎年 6 月に 2%~3%前後の予定通りの配当を実施している。

- 1) 太陽光発電事業
 - ・ 初期投資なしで太陽光発電設備を屋根等に設置
 - ・ 発電した電気を購入してもらうことで、資金を回収
- 2) 省エネルギー事業
 - ・ 空調や照明など省エネ機器の導入を提案
 - ・ 導入によるコスト削減分を設置先と分配



【3. 対象】

- 1) 市民ファンドを活用した自然エネルギーの普及に関わる事業
- 2) 市民が支えるエネルギーの地産地消事業

【4. これまでの支援先(連携先)】

- 1) おひさまエネルギーファンド株式会社

- ・南信州おひさまファンド

平成 17 年 2 月より出資募集

2 ヶ月余りで 476 名から 2 億 150 万円の募集額が満額出資

投資事業は太陽光発電設備、省エネルギー事業等

環境啓発効果の高いところを選択して太陽光発電装置の設置

(幼稚園、児童館、公民館など)

- ・温暖化防止おひさまファンド

平成 19 年 11 月より出資募集

653 名から 4 億 3430 万円の出資

募集額に至らぬ約 2800 万円を地元金融機関が融資

投資事業は太陽光発電設備、省エネルギー、グリーン熱等

- ・おひさまファンド 2009

平成 21 年 6 月より出資募集

7520 万円の募集額が満額出資されたため募集終了

- 2) 自治体との連携

- ・長野県飯田市は太陽光発電設備の設置された市の施設において 20 年間電力を購入する契約をしている

- ・飯田市が環境省の「環境モデル都市」に採択された際、その中で「おひさま進歩エネルギー株式会社」

は中核事業と位置づけられた

- 3) 企業との連携

- ・合同会社西友が全店舗で「温暖化防止おひさま募金」を実施し、温暖化防止おひさまファンドに寄付

- ・「温暖化防止おひさまファンド」において、出資募集額に至らなかった約 2800 万円を地元金融機関が融資

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

自然エネルギーをベースとする持続可能なエネルギー社会の構築を使命とし、地域の自立と一人ひとりが選択できる自然エネルギー市場の確立と拡大に市民出資の仕組みを用いて取り組んでいる。



太陽光発電設備



「おひさま発電所 1 号」の飯田市の明星保育園

(調査者：村田・加藤、調査日：平成 22 年 3 月 2 日)

【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める-寄付 使う-寄付・助成			
環境系事業等への資金支援名称	公益信託 ぎふNPOはつらつファンド			
機関名・所在地	名称：特定非営利活動法人 ぎふNPOセンター			
	所在地：岐阜市藪田南5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎3階			
連絡・問い合わせ先	担当部署	-	URL	http://www.gifu.npo-jp.net/
	電話	058-275-9739	FAX	058-275-9738
	mail	gifu@npo-jp.net		

【1. 経緯】

「ぎふNPOセンター」で県内のNPO法人へアンケートを行った結果、NPOの活動において資金面での課題が多くみられ「民間の資金循環を岐阜県内におこしたい」という思いが芽生えた。この課題解決には、公益的活動をするための資金を得る仕組みづくりが必要と捉え、それを「まず県からのお金で実施してもらう中で県民に広げられるのではないか」と岐阜県へ仕組みづくりを打診していた。

平成13年に岐阜県が設立した基金がこのファンドの始まりで、基金設立の初年度は県が事業を実施し、「ぎふNPOセンター」が次年度より事業を受託した。平成17年度より公益信託方式の現在の「NPOはつらつファンド」となった。このファンドはNPO法人の自立と発展を支援することを目的に、県民や企業等からの寄付金と県の出捐金をもとに設立されたものである。

【2. 資金支援の内容】

このファンドを通じて、県民一人ひとりの思いがNPOに託され、NPOの活動がより良い岐阜の未来へとつながっていくことを目指してきた。

1) 仕組み

【委託者】 岐阜県
 【受託者】 三菱UFJ信託銀行
 (信託代理店：十六銀行県庁支店)
 【受給者】 NPO法人

2) 受給対象：岐阜県内に主たる事務所があるNPO法人

3) 助成金額：上限200万円

4) 資金源：岐阜県からの出捐金、県民、企業からの寄付金

5) 審査方法：運営委員会にて審査し、受託者(三菱UFJ信託銀行)が助成先および助成金額を決定する。

※事業助成の選考にあたっては、ヒアリングやプレゼンテーションを実施することもある。

6) 助成メニュー（平成21年度現在）：事業助成・つなぎ資金利子助成の2種類

福祉・環境・まちづくりなど、地域や社会のさまざまな課題解決のためにNPOは活動を行っています。岐阜県内で活動するNPO法人を資金面から支援し、よりよい地域づくりをすすめるために、平成17年、「公益信託ぎふNPOはつらつファンド」は創設されました。
 県民一人ひとりのおもいがNPOに託され、NPOの活動がより良い岐阜の未来へとつながっていくことを、はつらつファンドは目指しています！

平成21年度募集 ※詳しくは募集のご案内をご覧ください

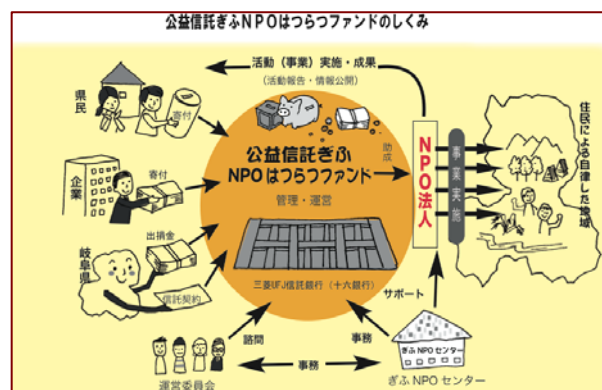
事業助成
 NPO法人が自ら設定する課題に対して、NPO法人ならではの特色を活かして高い成果を生み出す事業への助成

つなぎ資金利子助成
 NPO法人が補助事業や委託事業を行う資金として金融機関から借り入れた借入金の利子に対する助成

みなさまの寄附が、NPOの事業となって地域に実りをもたらします。ファンドへの寄附にぜひご協力ください！

●特定非営利活動法人 ぎふNPOセンター
 〒500-8584 岐阜市藪田南5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎3階
 TEL: 058-275-9739 FAX: 058-275-9738

●事業専用寄付口座
 【口座番号】00820-001-990005
 【出金元】出金元 特定非営利活動法人 ぎふNPOセンター
 【銀行名】十六銀行 銀行支店 美濃南条 支店番号：124487
 記入方法：公益信託ぎふNPO基金 ぎふNPOセンター 事業員 利子助成



【3. 対象】

1) 事業助成対象

NPO法人が自ら設定する課題に対して、NPO法人ならではの特色を活かして高い成果を生み出す事業

2) つなぎ資金利子助成

NPO法人が補助事業や委託事業を行う資金として金融機関から借り入れた借入金の利子に対する助成

【4. これまでの支援先】

1) 支援額と件数 ※平成17年度後期～平成21年度決定分

助成実績（累計）	341件
助成累計金額（累計）	約3億9000万円

2) 代表的な支援先例

- ・ NPO法人 メタセコイアの森の仲間たち
ずっと暮らし続けられる郡上をつくるための活動 (<http://www.metamori.org/index.html>)
- ・ NPO法人 こうじびら山の家
田舎の「遊び」と「暮らし」を楽しむための体験プログラム提供や交流・宿泊施設の運営
(<http://blog.canpan.info/koujibira/>)
- ・ NPO法人 ぎふいび生活楽校
里山を背景に、「まち」や「むら」の住む地域を越えて、子供や若者、大人もみんなと一緒に、学び楽しむ場の提供 (<http://www.juann.jp/npo/index.html>)

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

NPO法人は、住民一人ひとりの要望に応じて、柔軟に、きめ細かく、すばやく対応できるのが特徴である。これまで行政や企業では対応しきれなかった様々な課題に対応できるNPO法人は、新たな公共・社会サービスの担い手として期待されている。しかし、資金不足のため活動が制約されたり、活動の担い手となる人材育成が遅れているなどの課題を抱えているのが現状である。間接的な支援を行うことで、この資金不足という課題を解決することにより環境保全活動を始めた地域のためのサービスの発展に貢献してきた。

(調査者：平野良子、調査日：平成22年3月6日)

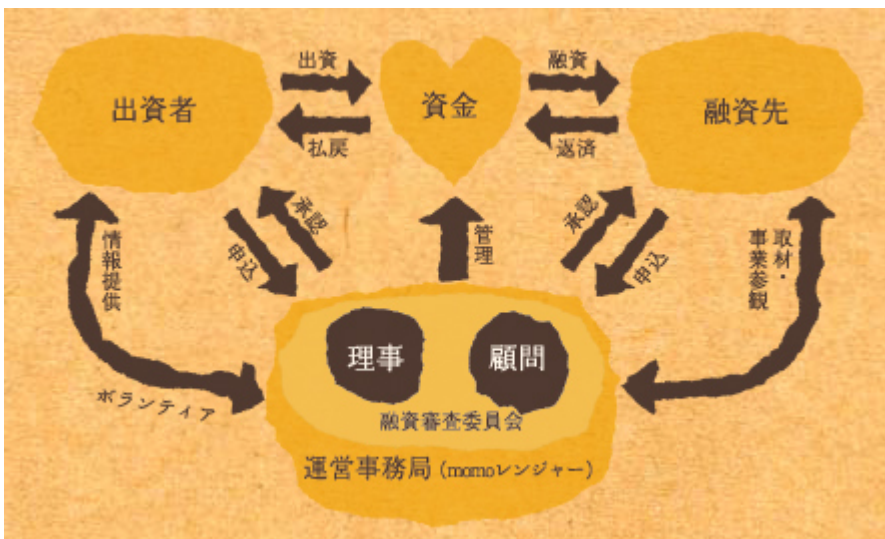
【資金支援事例：金融機関等】

支援パターン	集める-出資 使う-融資			
環境系事業等への資金支援名称	NPOバンク			
機関名・所在地	名称：コミュニティ・ユース・バンク momo			
	所在地：愛知県名古屋市中区富士見町 9-16 有信ビル 2F			
連絡・問い合わせ先	担当部署	運営事務局	URL	http://www.momobank.net/
	電話	052-331-5695	FAX	052-339-5651
	mail	info@momobank.net		

【1. 経緯】

自分たちの住むまちや村を、安心して子どもや孫たちの世代までずーっと暮らせるような地域にするため、動き出している人たちがいる。しかし、財政基盤が弱い、活動期間が短い、前例が無いなどの理由で、彼らの活動の資金調達はまだまだ困難が伴う。金融とは本来、みんなのお金を集め、必要としている人へ融通すること。地域に住むわたしたちのお金を、少しでも地域に住むわたしたちの暮らしに生かされる形で循環させたい。そんな想いで、コミュニティ・ユース・バンク momo は平成 17 年 10 月に立ち上がった。

【2. 資金支援の内容】



コミュニティ・ユース・バンク momo の資金循環のしくみと組織図

1) 出資

- ・一口1万円で個人は1口、団体は5口から出資可能
- ・50口以上の出資希望者には、momoの理念や現状、元本割れのリスク等を必ず改めて説明する
- ・出資時に「出資者の声」として以下を寄せてもらっている
 - 1 「環境」「福祉」などの融資希望事業
 - 2 融資先に期待すること
 - 3 出資した理由
- ・「出資者の声」はwebサイトに掲載され、他の出資者や融資申し込み団体も見る事ができる

2) 融資

- ・一般の金融機関が融資しにくいNPOやコミュニティビジネスに資金を提供

- ・融資後も momo の持つ「メディア機能」や「場づくり機能」を通じて非資金的な支援を実施
- ・融資先の情報(事業内容、借入額)などを web サイトやニュースレターなどで公開

【3. 対象】

- 1) 豊かな未来を実感できる地域社会をつくる事業に融資する
- 2) 選定基準
 - ・地域性 (地域の問題を解決する事業)
 - ・市民性 (市民参加を促進する事業)
 - ・独自性 (他に先駆けて挑戦する事業)
 - ・継続性 (融資実行後も継続する事業)
 - ・成長性 (人や組織が成長する事業)
 - ・発展性 (他のモデルとなる事業)
 - ・浸透性 (人びとの暮らしに浸透する事業)
- 3) 融資額は原則、出資額の 10 倍まで

【4. これまでの支援先】

- 1) NPO 法人 こうじびら山の家
 - ・都市部住民を対象に、田舎の生活や遊びを体験する「グリーンツーリズム推進事業」
 - ・里山に伝わる知恵や技を学び、伝えていく「伝承支援事業」
 - ・名古屋市内に本拠を置く momo がこうじびら山をの家のツアーを宣伝するなど資金以外でも継続支援
 - ・融資額 1,500,000 円(融資期間 平成 19 年 9 月 3 日～平成 22 年 9 月 1 日)
- 2) 石井伸弘(かえる農園)
 - ・岐阜県本巣郡北方町周辺で無農薬、無化学肥料で野菜作りを中心に農業を営む
 - ・momo 出資者から石井さんへの融資の返済利息分を寄付したいとの申し出があり実現
 - ・トラクター購入費用を融資
 - ・融資額 500,000 円(融資期間 平成 19 年 12 月 25 日～平成 20 年 10 月 30 日)
- 3) NPO 法人 ぎふ NPO センター
 - ・岐阜県郡上市白鳥町石徹石にてマイクロ水力発電によるエネルギー自給モデル構築事業
 - ・融資額 1,500,000 円(融資期間 平成 20 年 1 月 4 日～平成 22 年 8 月 1 日)



かえる農園の石井さんとその仲間



こうじびら山の家にて田舎を体験する参加者

【5. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

環境保全活動を資金面(融資)および非資金面(融資後の広報や人的支援)で支援することで貢献している。

(調査者：加藤篤博 調査日：平成 22 年 3 月 20 日)

Ⅲ-2 資金支援事例：事業者

【資金活用事例：事業者】

活用している支援パターン	使う - 融資			
活用している資金支援名称(支援機関名)	コミュニティ・ユース・バンク momo			
事業所名・所在地	名 称：特定非営利活動法人 こうじびら山の家			
	所在地：岐阜県郡上市明宝畑佐 137-3-3			
代表者	北村周			
連絡・問い合わせ先	担当部署		URL	http://blog.canpan.info/koujibira/
	電話	0575-87-3039	FAX	0575-87-3052
	Mail	koujibira@gujo-tv.ne.jp		

【1. 支援の選定経緯】

代表理事の北村氏と副代表理事の河合氏がそれぞれ郡上へ移住して1年が経ち、ずっとその地で暮らしていくべく、自分たちで仕事をつくり出すために平成19年6月に設立。コミュニティ・ユース・バンク momo の第1回融資募集も後押しとなった。

【2. 支援を受けた事業内容】

- 1) 岐阜県郡上市明宝の畑佐という地域で、大きな古民家や大小のバンガロー、炭焼窯、裏庭を活用した体験交流施設を運営
- 2) 週末を中心に、田舎の自然と文化を体験できるプログラムも季節に合わせて提供



【3. 支援による変化（支援前と支援後）】

（他から借りたことがないのでわからないが）momo 側から「～してほしい」という要望をよく聞く。人とのつながりが増えた。アドバイスを受けて、事業を手伝ってくれる。

コミュニティ・ユース・バンク momo から融資を受けた理由

- 1) お金以外のつながりも借りたかったから
- 2) 直感的に「ここしかない！」と思ったから
- 3) 他に選択肢がなかったから

【4. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

- 1) 炭づくりの伝統を継承している（バイオマスエネルギーの可能性について実験している）
- 2) 間伐材を積極的に利用している
- 3) 地元の人たちに薄謝を支払い、プログラムの講師を務めてもらっている
（地元の人たちにとっての小遣い稼ぎ）
- 4) 地元の子どもたちに自然体験の場を提供している
- 5) 味噌作りや梅作りを地域の人に聞きながら実践している

【5. 今後の展望と課題】

1) 展望

平成 22 年 9 月で設立から丸 3 年を迎え、同時期に momo への返済も完了する。こうじびら山の家では、ここまでの 3 年が創生期、その先数年を成長期と捉えている。成長期は、体験プログラムとモノを関連付け、地域資源を生かしたモノの販売を含めて（例えば炭やきと火鉢、雑穀栽培と雑穀入り食品）収益性をあげていくことを目指す。同時に、地域の子育て応援拠点として、保育園入園前の幼児と親のための自然体験、障害を持つ子ども、小学生にとっての放課後の居場所などを提供する役割を、赤字にならないように果たしていくことを目指す。

2) 課題

動く資金が少ないので、人手を他に頼めず自分たちでまかなう状態が続く。これを何とかしたいが、まずは 2 人がこうじびら山の家の仕事である程度の収入を得られるようになることが先と考えている。

（調査者：木村真樹、調査日：平成 22 年 3 月 9 日）

【資金活用事例：事業者】

活用している 支援パターン	使う - 助成・寄付			
活用している資金 支援名称（支援機 関名）	三重銀行 NPO サポートファンド			
事業所名・所在地	名 称：森林施業 NPO 法人 森林の風			
	所在地：〒512-0933 三重県四日市市三滝台 4-15-7			
代表者	蒲田博			
連絡・問い合わせ先	担当部 署		URL	http://www.morinokaze.info/
	電話	059-321-7719	FAX	
	Mail	ktaki@m3.cty-net.ne.jp		

【1. 支援の選定経緯】

森林施業は危険を伴う。啓蒙活動として遊び感覚でのスタートは良いが、森林再生では森と真剣に向かい合う姿勢が重要。三重銀行は社員を巻き込み、本気で取り組んでくれている。三重銀行と森林の風と、どちらにとってもプラスとなるようなことが考えられるように感じた。

【2. 支援を受けた事業内容】

1) 森を守るための実践活動

- ・森林所有者及び森林組合や行政からの委託事業として、間伐、地拵え、植樹、枝打ちなどの保全作業
- ・契約した企業と協働で森林保全活動を実施

2) 自分たちの知識を上げるための「まのきこり人育成講座」

- ・団塊の世代を中心にした森林講座を年 15 回以上開催
- ・会員の技術、知識の向上と森林再生を目指す人材獲得が目的
- ・活動参加者は、年間 1000 名（三重銀行関連で 200 名）

【3. 支援による変化（支援前と支援後）】

三重銀行と「みえぎん まなびの森」において森林教育活動を行うよ

- ・三重銀行保有の空き地を「みえぎん まなびの森」として整備
- ・三重銀行の社員も参加して、「森林の風」と活動している
- ・三重銀行の社員および地域の方々の環境への関心を高めると場となっている



鋸を使って 杉の木の伐倒をする女性の参加者

【4. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

昭和20年代から40年代に植林された森林は、材木価格の低迷に林業従事者の激減が重なり荒廃した状態になっている。また、森林所有者も都市部での生活が進み、森林の境界も曖昧になりつつある。

この現状を打開し、森林保全に取り組むことで、自然環境を守っている。

【5. 今後の展望と課題】

1) 数字を残せる、数字で計算できる集団になる

- ・企業と協働して森林保全活動を実施するときにはCO₂削減量など数字で表すことが重要

2) 森林施業のセミプロだけの集団ではいけない

- ・会員には、活動参加のみでなく森林のデータ管理や経理、渉外（外交）など分担していく



間伐作業に欠かせないチェーンソーの講習風景



実際の山で枝打ちの体験をしているところ

(調査者：加藤篤博、調査日：平成22年3月11日)

【資金活用事例：事業者】

活用している 支援パターン	使う - 助成・寄付			
活用している資金 支援名称（支援機 関名）	知多信用金庫 地域振興支援サポート「夢サポート」			
事業所名・所在地	名称:有限会社 芳賀自動車			
	所在地:愛知県半田市住吉町2丁目126番地の1			
代表者	芳賀 淳			
連絡・問い合わせ先	担当部 署	—	URL	—
	電話	0569-22-8755	FAX	0569-23-1577
	Mail	qtu-haga@ipc-tokai.or.jp		

【1. 支援の選定経緯】

元々付き合いのあった地域の信用金庫（知多信用金庫）の担当者や商工会議所から、知多信用金庫の「夢サポート」のことを聞いたことが、選定のきっかけだった。

【2. 支援を受けた事業内容】

1) 1回目

ISO14001 の認証取得のための経費として支援をうけた。

2) 2回目

「自動車低燃費化事業」の中で、燃費と環境意識の向上を目的に、「タコロジー（商品名）」の開発費として支援をうけた。

ハイブリッド積載車



会社全景

はじめますか? Let's eco-drive.

地球にやさしいエコドライブ
一人ひとりの小さな心がけて、カンタンに実行できるエコドライブ。
芳賀自動車はもっと人に、もっと地球にやさしいカーライフをめざし、
賢く、ムダのないエコドライブを提案します。

1 エンジン洗浄
エンジンの性能を蘇らせる/
エンジン内のフェーエルライン、オイルラインの洗浄をすることで、燃費効率を限りなく新車に近い状態に復活させます。
●燃費改善! ●排ガス低減!
●馬力が回復! ●静粛性アップ!

2 エコアース
エンジン出力を向上させる/
車両の電気伝導率を高めることで、点火装置や充電装置など本来の性能を引き出し、エンジンの燃焼効率を高めます。
●燃費改善!
●馬力が向上!

3 タコロジー
ムダなアクセルを踏ませない!
エンジン回転数を設定することで、エコドライブを維持できる回転数です。設定回転数を超過するとランプとブザーで警告します。
●燃費改善! ●エコドライブへの意識向上

エンジン洗浄効果データ
エンジン洗浄前 燃費 8.5km/ℓ
エンジン洗浄後 燃費 9.2km/ℓ
燃費向上! **8%**

エコアース効果データ
エコアース前 燃費 13.6km/ℓ
エコアース後 燃費 14.3km/ℓ
燃費向上! **5%**

タコロジー効果データ
エンジン回転数 燃費
2500rpm 9.2km/ℓ
2000rpm 11.4km/ℓ
燃費向上! **24%**

eクルマ
燃費を踏まえること、クルマができる一歩のエコドライブは、芳賀自動車ならカンタンに実現できます。

3つの提案です。

あなたと、あなたのクルマと良いお付き合いを。だから、
Quality Tune Up Haga
High Quality Automobile Service and Ecological Lifestyle
●ISO 9001 認証取得 ●ISO 14001 認証取得
有限会社 芳賀自動車 TEL 0569-22-8755
〒464-0802 愛知県半田市住吉町2丁目126番地1-1
FAX 0569-23-1577

【3. 支援による変化（支援前と支援後）】

「夢サポート」からの支援を受ける前と比べて、商工会議所等の会員仲間から、「どうしたらこの（夢サポートの）支援を利用できるのか」などと聞かれることが多くなり、地域の事業者へ環境への取組を薦める機会になっている。また、日本商工会議所青年部のビジネスプランコンテストで入選し、その後支援を受けた商品が完成したことにより、日本商工会議所青年部のホームページに掲載され、少しずつではあるが需要の広がりを実感できている。

【4. 支援を通じて環境保全活動へどのように貢献しているか】

支援を受けた自社開発商品「タコロジー」は、自動車運転時に回転数を意識して運転すれば、燃費が良くなるものの、商用車には回転数を知るためのタコメーターが設置されていないことが多いことに着目したものである。この商品が普及すれば、現在乗っている車の燃費の改善（CO₂の削減）、エコドライブへの意識の向上が期待できる。

【5. 今後の展望と課題】

1) 今後の展望

- ・ 「タコロジー」開発については低価格な事もあってか、問い合わせが全国からあることから、広がりへの展望が持てる状況である。
- ・ 今後は、地元地域の環境（エコ）をキーワードに新規事業への準備を進めている。

2) 課題

- ・ 環境教育の成果として従業員の環境意識は高まったが、今後も会社として教育への投資が必要である。
- ・ 自動車業界は環境への対応が遅れている。ハイブリッド車種の導入だけではなく今動いている車にどのような環境対策を施していくかについての対策を業界や行政含めて考えることが課題である。
- ・ 様々な機関の助成制度がある中で、行政の助成制度が特に遅れていると感じておりこの部分の整備が課題である。
- ・ 「タコロジー」や「エンジン洗淨」（グリーン購入法特定品目）等の環境商品等の普及には、特に行政（環境省等）が利用してその効果を認めてくれることでかなりの効果があると考えられ、行政機関が率先してグリーン購入を推進することに期待している。

（調査者：平野良子、調査日：平成22年3月1日）